

令和7年度かながわ健康プラン2 1 目標評価部会の開催結果について

1 開催状況

日時：令和8年1月14日（水）18時30分～20時

形式：オンライン

委員：【部会長】立道 昌幸（東海大学医学部医学科教授）

【副部会長】笹生 正人（神奈川県医師会副会長）

北岡 英子（湘南鎌倉医療大学看護学部教授）

佐野 喜子（公益財団法人結核予防会総合健診推進センター） ※欠席

津野 香奈美（神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科教授）

野坂 俊弥（東海大学体育学部生涯スポーツ学科教授）

松岡 友輔（神奈川県歯科医師会常任理事）

横山 徹爾（国立保健医療科学院生涯健康研究部特任研究官）

2 議題

(1) 「かながわ健康プラン2 1（第3次）」の状況（目標値・実績値）について

(2) 「健康寿命（令和4年度公表値）」の分析結果について

3 各議題の概要及び意見等

(1) 「かながわ健康プラン2 1 目標評価部会（第3次）」の状況（目標値・実績値）について

ア 概要

プラン（第3次）の進捗状況を報告するとともに、新たに目標値設定を検討している以下3項目の目標値について、委員に諮り承認を得た。また、関連情報として令和6年国民健康・栄養調査の結果概要について報告を行った。

	目 標	目標値
4	児童・生徒における肥満傾向児の減少	減少
11	運動やスポーツを習慣的に行っていないこどもの減少	小学5年生女子 6.9%
20	妊娠中の喫煙をなくす	0%

イ 主な意見等

<プラン目標についての意見>

○ 改善した項目について、統計学的検定を行ったり、改善とみなす基準（「目標に向けて何%改善したら改善とみなす」等）を設けているのか。

⇒（県）現状では計画策定時の値と更新された実績値との比較のみで判断しているが、中間評価に向けて評価方法も精査していく。

○ 11番「運動やスポーツを習慣的に行っていないこどもの減少」について、対象が学童期の子どもとなると、学校教育の影響が大きいいため、教育委員会とも連携して推進してほしい。

⇒（県）教育部門との連携を強化して推進していく。

○ 4番「児童・生徒における肥満傾向児の減少」の目標値はもっと厳しい目標値でも良いのでは。

⇒（県）国に倣って目標値を「減少」としている。今後国が具体的に数値を設定した場合は、県も数値目標を示す必要があると考えている。

<国民健康・栄養調査の結果についての意見>

○ 男性の食塩摂取量が多い理由について、食事調査の元に戻って、料理ベースでどんなものが多いかを分析してみると良いと思う。

○ 女性の喫煙率について、全年齢の平均のデータだけでなく、年代別に見てみるとより課題が浮かび上がってくると思う。

⇒（県）ご助言を踏まえて、今回の結果の分析を検討したい。

（２）「健康寿命（令和４年度公表値）」の分析結果について

ア 概要

神奈川県健康寿命について、男性は延伸傾向である一方、女性の健康寿命が前回調査（令和元年度公表値）に比べ短縮し、都道府県順位もワースト３位となった。

女性の健康寿命が伸び悩んでいる要因について、神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科 渡邊 亮 教授に分析を依頼した結果、神奈川県の女性は20代、30代、50代で「健康上の問題で日常生活への影響がある」と答えた者の割合が他県に比べ高く、その中でも20代で「うつ病やその他こころの病気」で通院している女性が多いことが分かった。分析結果を受けて、女性の健康寿命延伸に向けた効果的な取組みについて、委員に意見を募った。

イ 主な意見等

○ 神奈川県の女性のメンタルヘルスの状況が悪いことは以前から言われているが、原因が追究できていない状況で取組みを検討するのは難しい。20代・30代の女性は男性に比べバックグラウンドの多様性があるため、そういったところに着目した分析や、県内の地域差も見てみると良いと思う。

○ 神奈川県と他の都道府県をまとめて比較しているが、人口規模が似ている都道府県と比較をしてみると、神奈川県の特色が見えてくると思う。

⇒（県）ご意見をもとに、追加の分析を検討したい。

以上